

2025年7月17日

各位



会社名 株式会社トリプルアイズ
代表者名 代表取締役 山田雄一郎
(コード番号：5026 東証グロース)
問い合わせ先 TEL. 03-3526-2201

トリプルアイズ 2025年8月期第3四半期決算説明会 書き起こし公開のお知らせ

2025年7月16日に開催しました「2025年8月期第3四半期決算説明会」につきまして、書き起こし記事を公開いたしましたので、お知らせいたします。

2025年8月期第3四半期の決算概要、直近の取り組み、今後の成長戦略等についてご説明しておりますので、株主・投資家の皆さまにおかれましては、ぜひご覧いただけますと幸いです。

本リリースに関するお問い合わせ先

株式会社トリプルアイズ

電話：03-3526-2201

MAIL：info@3-ize.jp



株式会社トリプルアイズ
2025 年 8 月期第 3 四半期 決算説明会
2025 年 7 月 16 日

イベント概要

[企業名] 株式会社トリプルアイズ

[証券コード] 5026

[イベント言語] JPN

[イベント種類] 決算説明会

[イベント名] 2025年8月期第3四半期決算説明会

[決算期] 2025年度第3四半期

[日程] 2025年7月16日

[時間] 19:00 - 20:00

[開催場所] インターネット配信

[登壇者] 3名 代表取締役・山田雄一郎、取締役・桐原永叔、取締役 CFO・加藤慶



□AIによるサマリー

通期業績予想修正概要

- ・売上高：予想 59 億円から 56 億円に下方修正
- ・営業利益：マイナス計上（前期は黒字）
- ・経常利益：僅かに黒字を維持
- ・特別損失：GPU 関連在庫の評価損 2 億 7,800 万円を計上
- ・法人税等調整額：7,100 万円の取り崩し
- ・第 3 四半期までの業績：
 - ・売上高・売上総利益は過去最高を達成
 - ・営業利益：△2,100 万円
 - ・経常利益：7,600 万円
 - ・EBITDA：1 億 5,800 万円

業績修正の理由

- ・GPU を用いた暗号資産マイニングマシン販売が税制改正により低迷
- ・エンジニアリングサブセグメントの人員減少が想定を上回る
- ・AI インテグレーションサービスでの人材確保目的の臨時昇給実施
- ・AI 開発用 GPU マシンの新商品開発に向けた研究開発費用発生

事業セグメント状況

- ・AI ソリューション事業
 - ・売上高・売上総利益・EBITDA は前年同期比で 160~180%成長
 - ・AI インテグレーション：生成 AI 関連の開発需要が強い

- ・ AI プロダクト：LINE WORKS との連携拡大
- ・ エンジニアリング：自動車業界の需要は強いが人員減少が課題
- ・ GPU サーバー事業
 - ・ 第 3 四半期に入り業績改善（第 3 四半期単独では営業利益計上）
 - ・ AI 開発用途の GPU マシンと ASIC ベースのマイニングマシンへシフト
 - ・ データセンター事業の専用 LP 公開など販売体制強化

成長戦略

- ・ AI プラットフォームの展開
 - ・ 自社開発 AI プラットフォームを多様な業種に展開（現在 40 都道府県）
 - ・ AI ラボの戦略的拡大（リードソース獲得からの大型案件化）
 - ・ LINE WORKS との連携によるユーザー基盤拡大（500 万ユーザー市場）
- ・ レガシー産業への AI 実装
 - ・ 製造業・自動車業界・ゲーム業界など業種特化の取り組み
 - ・ エッジ AI 市場の拡大に対応
 - ・ イノテック社との共同開発による製造現場向けエッジ AI
- ・ GPU サーバー事業の推進
 - ・ データセンター運営経験を活かした提案力
 - ・ 生成 AI・大規模言語モデル・3D シミュレーション向けインフラ提供
 - ・ データセンターの拡張検討（国内外）
- ・ 同規模以上の M&A 継続検討
 - ・ エンジニアが活躍できる領域の拡大
 - ・ 既存の AI プラットフォームとのシナジー創出
- ・ 暗号資産トレジャリー事業の支援
 - ・ 企業の余剰資金・資本を活用した暗号資産保有の支援
 - ・ マックハウス社との協業を発表
 - ・ 自社の暗号資産マイニング運営ノウハウを活用

□本日の概要

業績下方修正、棚卸資産評価損と通期赤字

エッジAIの可能性 / AI GPUサーバー

暗号資産トレジャリー事業支援

Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

山田雄一郎代表取締役（以下同）

第3四半期決算と当社の成長戦略についてご説明いたします。本日は説明会を通じてお伝えしたい3つのキーワードを挙げています。

まず1点目は業績の内容について、2点目はエッジAIとGPUサーバーについて、3点目は暗号試算トレジャリー事業の支援についてです。

□ 連結業績予想修正

GPUサーバー事業における棚卸資産評価損278M及び、AIソリューション事業及びGPUサーバー事業における売上高、営業利益の減少、これらに伴う税効果の取り崩し71Mの計上見込により業績予想の修正を行います。

(百万円)	2025年8月期 期初業績予想	2025年8月期 修正業績予想 (今回発表)	増減額	増減率	(ご参考) 前期実績 (2024年8月期)
売上高	5,992	5,650	△341	△5.7%	4,410
営業利益 ・損失(△)	111	△83	△195	-	38
経常利益	98	3	△95	△96.8%	47
親会社株主に帰属 する当期純利益 ・損失(△)	30	△375	△406	-	76

Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

連結業績予想の修正についてご説明いたします。AIソリューション事業及びGPUサーバー事業の売上げ・営業利益の減少、在庫の特別損失が内容になります。売上高につきましては56億円となり、前期40億円から増加しておりますが、期初予想の59億円からは下回る内容になっております。営業利益・経常利益につきましても期初予想より大幅減となりまして、経常利益についてはギリギリ黒字ということで開示していますが、営業利益についてはマイナスということで開示しています。最終損益についても棚卸資産の評価損を計上しています。

修正背景①

棚卸資産評価損278百万円の特別損失の計上及び、AIソリューション事業、GPUサーバー事業の直近動向を踏まえた繰延税金資産の取り崩し71百万円の通期計上見込み

GPUサーバー事業における令和7年度税制改正により、GPUを用いた暗号資産マイニングマシンの販売が低迷したことに伴い、当該GPUマシンの販売を終了し、棚卸資産評価損278百万円を計上しました。

今後、GPUサーバー事業においては、データセンター向けのAI開発用途GPUマシン及びASICを用いた暗号資産マイニングマシンの販売、暗号資産トレジャリー事業支援に注力します。

また、上記に加え、AIソリューション事業、GPUサーバー事業の直近動向を踏まえた当期連結業績予想の修正に合わせて、通算グループにおける将来の課税所得の見直しを行い、繰延税金資産の回収可能性を検討した結果、法人税等調整額71百万円の計上を通期で見込んでおります。

Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

こちらが棚卸資産評価損 2 億 7800 万円と繰延税金資産の取り崩しの内容です。

記載しておりますように、令和 7 年度の税制改正によりまして GPU を用いた暗号資産マイニングマシンの販売が低迷したことに伴い、GPU マシンの販売を終了し、棚卸資産評価損 2 億 7800 万円を計上しました。

今後につきましては、GPU サーバー事業というセグメントにおいて、データセンター向けの AI 開発用 GPU マシン、そして ASIC を用いた暗号資産マイニングマシンの販売、加えて暗号資産トレジャリー事業の支援にシフトしていくという形を想定しております。

それに加えて、両事業の将来の利益を踏まえた課税所得の見直しということで、繰延税金資産の回収可能性を検討した結果、7100 万円の法人税等調整額を計上しております。

修正背景②

AIソリューション事業、GPUサーバー事業の直近動向を踏まえた売上高及び営業利益の減少

(百万円)	2025年8月期 第3四半期累計 実績	2025年8月期 通期計画 (業績予想修正後)	修正後 通期計画比 増減
売上高	4,253	5,650	+1,397(※)
営業利益 ・損失(△)	△ 21	△83	△62(※)
経常利益	76	3	△73
当期利益 ・損失(△)	△ 328	△375	△47

※ 4Q売上高の伸び悩み、4Q営業利益の悪化の主な理由

(AIソリューション事業のエンジニアリングサブセグメント)
単価の上昇による売上増を人員数の減少が当初想定を上回る

(AIソリューション事業のAIインテグレーションサブセグメント)
人員確保目的の臨時昇給を3Qに実施

(GPUサーバー事業)
令和7年度税制改正の影響によりGPUマイニングマシンの
需要減少、AI開発用途GPUマシンの新商品の開発に向けた
研究開発費用の増加

Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

こちらについては売上と営業利益に影響する部分についてコメントしております。表にありますように、第3四半期までは営業利益がマイナス2100万円、経常利益については7600万円の黒字というところですが、一番右の縦のところを見ていただくと営業利益がマイナス6200万円、経常利益がマイナス7300万円となり、第4四半期での利益の減少が大きく影響しているというところですね。その理由ですが、エンジニアリングサブセグメントにおきまして、単価の上昇による売上増に対して人員の減少が当初想定を上回ったということ、さらにAIインテグレーションサブセグメントにつきまして、人員確保目的の臨時昇給を第3四半期に行なっていること、そしてGPUサーバー事業について、先ほど申し上げたマイニングマシンの需要減に加え、AI開発用途のGPUマシンの新商品の開発に向けた研究開発費用の増加が挙げられます。

□2025年8月期第3四半期業績

決算サマリー①

連結前年同期比較

7

GPUサーバー事業において3Q会計期間にて営業利益を計上したものの、AIソリューション事業の「エンジニアリング」サブセグメントでの人員減による3Q会計期間の赤字が響き、3Q連結累計は営業赤字で着地。当期利益は、GPUサーバー事業における棚卸資産評価損278M及びAIソリューション事業、GPUサーバー事業の直近動向を踏まえた税効果の取り崩し69M等の計上により当期純損失で着地。

(百万円)	2024年8月期 第3四半期累計実績	2025年8月期 第3四半期累計実績	前年同期比	2025年8月期 通期計画 (業績予想修正後)	進捗率
売上高	3,033	3Q 過去 最高 4,253	140.2%	5,650	75.3%
売上総利益	1,028	3Q 過去 最高 1,357	131.9%	1,740	78.0%
営業利益 ・損失(△)	19	△ 21	—	△83	—
EBITDA	173	258	148.7%	222	115.9%
経常利益	49	76	154.9%	3	—
当期利益・損失(△)	42	△ 328	—	△375	—

※EBITDA = 経常利益 + 減価償却費 + のれん償却費 + 支払利息

Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

ここから第3四半期の業績の内容になります。昨年の第3四半期との比較になっております。GPUサーバー事業については、3Q会計期間で営業利益を計上しているものの、エンジニアリングセグメントの方では赤字ということで、全体としては営業赤字ということになっております。

第3四半期の売上高、売上総利益はともに3Q過去最高の数字になっています。営業利益についてはマイナス2100万円、経常利益については7600万の黒字、EBITDAに関しては2億5800万円を計上しているところです。

<売上高>

売上高は前年同期比140.2%となり、エンジニアリングの好調と連結取り込みにより、大きく伸長

→AIソリューション事業の「AIインテグレーション」サブセグメントでは、生成AI関連案件の需要増により、引き続きAIラボ契約(月額固定のAIコンサル/開発契約)の受注が拡大(AIラボ案件事例頁参照)。AI請負案件も増加中

→AIソリューション事業の「AIプロダクト」サブセグメントでは、AI顔認証付きクラウド型勤怠打刻サービス「きんろく for LINE WORKS」を販売開始、アプリディレクトリ登録が完了し、マーケティングが加速

→AIソリューション事業の「エンジニアリング」サブセグメントでは、BEXがトヨタグループを中心とした取引が安定的に推移し、4月以降で人員単価10%超アップを実現する案件が多数あったが、人数減が当初想定を上回ったため、3Q以降は売上が減少

Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

売上高自体は前年同期 140%の成長ということで、通期を通して見ると、エンジニアリングの好調と連結取り込みによって大きく伸びていることを説明しています。

<売上総利益/営業利益/経常利益/EBITDA>

売上総利益は前年同期比131.9%、営業利益は昨年より悪化し赤字で着地、EBITDAは前年同期比148.7%、経常利益は前年同期比154.9%に成長

→「AIインテグレーション」における単価上昇、AIラボ契約拡大などが利益に寄与

→「エンジニアリング」においては高稼働率を維持しているものの、5月に臨時賞与32Mを支給し、また、人数減が当初の想定を上回ったため、3Q以降利益水準が低下

→販管費は、「AIインテグレーション」における3Qで新卒入社による社員増及び「エンジニアリング」における上記臨時賞与の影響で、対2Q比較で約24M増加

→GPUサーバー事業において、3Qは節税ニーズの需要拡大により、3月に大きく営業利益を計上し、3Q会計期間で営業利益は52M改善し、3Q累計は営業損失55Mで着地。また、2Q計上の保険解約返戻金56M、暗号資産相場が堅調に推移したため、3Q経常利益は41Mで着地し、黒字転換。税制改正の影響を踏まえ、今後はAI開発用途向けのGPUサーバーの販売を進める予定。

<当期利益>

経常利益は黒字であるものの、GPUサーバー事業における棚卸資産評価損278Mの計上及びAIソリューション事業、GPUサーバー事業の直近動向を踏まえた業績予想修正に伴う繰延税金資産の取り崩しによる法人税等調整額69Mの計上等、当期純損失を計上

Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

売上総利益の伸びは高かったのですが、営業利益については昨年より悪化、EBITDA と経済利益についても前年同期比では非常に伸びているということの説明が書いてあります。

(百万円)	AIソリューション事業			GPUサーバー事業		
	2024年8月期 第3四半期 累計実績	2025年8月期 第3四半期 累計実績	前年同期比	2024年8月期 第3四半期 累計実績	2025年8月期 第3四半期 累計実績	前年同期比
売上高	2,049	3,443	168.0%	1,013	818	80.8%
売上総利益	550	974	177.0%	508	391	77.1%
営業利益・ 損失(△)	41	32	78.4%	△ 21	△ 55	—
EBITDA	58	107	185.4%	115	150	130.3%
経常利益	38	34	89.8%	10	41	389.2%

※EBITDA = 経常利益 + 減価償却費 + のれん償却費 + 支払利息

※セグメント別業績については、2025年8月期からの経営指導料等の計上区分変更の会計方針の変更に伴い、2024年8月期の実績を遡及修正しています。

Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

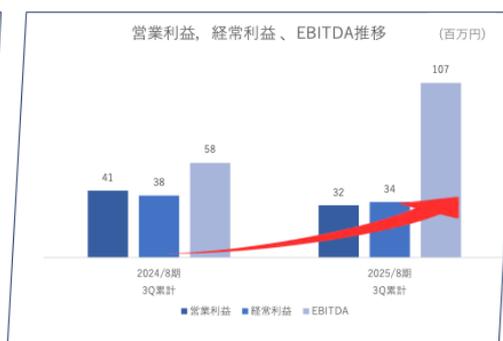
先ほどの連結全体の数字を事業セグメント別にブレイクダウンしたのがこちらの表です。AIソリューション事業につきましては売上高、売上総利益、EBITDAにつきまして、それぞれ160%、170%、180%と前年同期比で成長しておりますが、営業利益、経常利益については8割弱、9割程度になっているというところであります。GPUサーバー事業については、売上総利益が8割弱、営業利益も昨年より赤字が拡大しておりますが、EBITDAと経常利益についてはプラスになっております。

AIソリューション事業概況①

売上高前期比68%増、EBITDAは前期比85.4%増

11

AIソリューション事業は、AIインテグレーション、AIプロダクトに加えて、BEXが行っているエンジニアリング(自動車設計)で主に構成されております。売上高は前年同期比で68.0%増加、売上総利益は前年同期比で77.0%増加、営業利益、経常利益は前年度並みで引き続き好調であり、EBITDAは前年同期比で85.4%増加。AIインテグレーションはオーガニックに成長、またBEXは、5月臨時賞与32Mを支給し、人員減は当初想定を上回ったこと等により、下期は利益水準が低下する見込み。



Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

AIソリューション事業の概要になります。グラフにつきましては、売上げ、売上げ総利益、営業利益、経常利益、EBITDAの昨年第3四半期との比較の資料になります。

AIソリューション事業	AIインテグレーション	<ul style="list-style-type: none"> ・商流改善や単価上昇による社員平均粗利額の増加、BP粗利率の改善 ・24年9月に資本業務提携したゲームカードジョイコホールディングス社からDX/AI案件開発/保守業務を受注が拡大し、業務提携が順調に進行中 ・生成AI関連の開発需要増に伴い、AIラボ契約は引き続き安定的に拡大中。これに加え、AIラボ契約からAI請負案件が増加、RAG開発、行動分析AIなど幅広く対応中 ・パッケージソフト「PRISM」(医薬品卸向けクラウド販売管理システム)事業が順調に成長中、新規受注及び既存顧客からの追加受注が拡大
	AIプロダクト	<ul style="list-style-type: none"> ・AI顔認証ログインアルコールチェックサービスAIZE Breathの大手物流会社への導入開始 ・AI顔認証ログインクラウド型勤怠打刻サービス「きんろく for LINE WORKS」を販売開始、アプリディレクトリ登録が完了し、マーケティングが加速 ・他社人事労務管理システムとの顔認証打刻新規API連携開始
	エンジニアリング	<ul style="list-style-type: none"> ・自動車業界内としては、全体の生産台数は好調に推移している。新車/新技術の開発意欲も旺盛で、トヨタグループとの取引は高稼働率を維持している。米国の関税強化の影響については、開発人材ニーズが強いものの、本事業への影響は注視が必要 ・高稼働率を維持し、単価は向上しているものの、5月に臨時賞与32Mを支給し、また、人数減が当初の想定を上回ったため、3Q以降の利益水準が低下 ・トリプルアイズと共同で、自動車設計業務効率化のためのAIソフト開発のプロジェクトチームを組成、複数の設計効率化ソフトを試作開発中

Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

AIソリューション事業の中身については、AIインテグレーション、AIプロダクト、エンジニアリングの3つになりますが、ポイントを説明させていただきます

AIインテグレーションについては、商流改善と単価上昇が継続して続いており、全体的に好調でございます。資本業務提携したゲームカードジョイコさんとの業務も拡大しております。生成AI関連の開発需要も非常に活況を呈しており、またパッケージソフトである医薬品卸し向けのクラウド販売管理システムについても好調です。

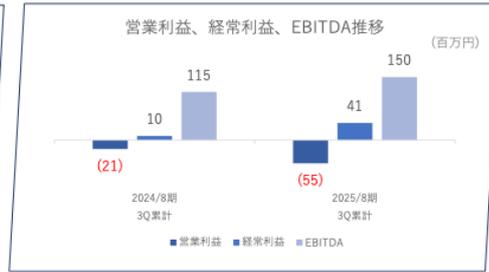
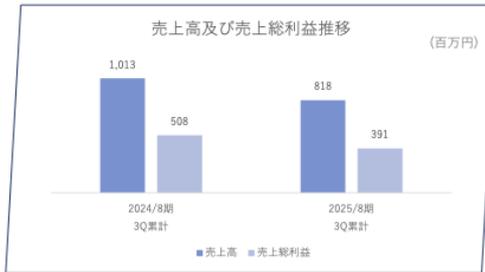
AIプロダクトは、LINE WORKSさんとサービス展開している「きんろく」や他社との人事論管理システムの連携が広がっているというところで、売上を拡大していくための連携が着々と進んでいる状況でございます。

最後のエンジニアリングですが、自動車業界は米国の関税強化の影響について注視が必要な状況でありますけれども、需要については依然として強い状況であります。そういったなかで単価の向上もありましたが、臨時賞与や人数減が当初想定を上回ったため、3Q以降の利益水準が低下しているという状況です。

3Qは節税ニーズの需要拡大により、3月に大きく営業利益を計上、3Q会計期間で営業利益は52M改善し、3Q累計は営業損失55Mで着地。また、2Q計上の保険解約返戻金56M、暗号資産相場が堅調に推移したため、3Q経常利益は41Mで着地し、黒字転換。税制改正の影響を踏まえ、今後はAI開発用途向けのGPUサーバーの販売を進める予定。

GPUサーバー事業

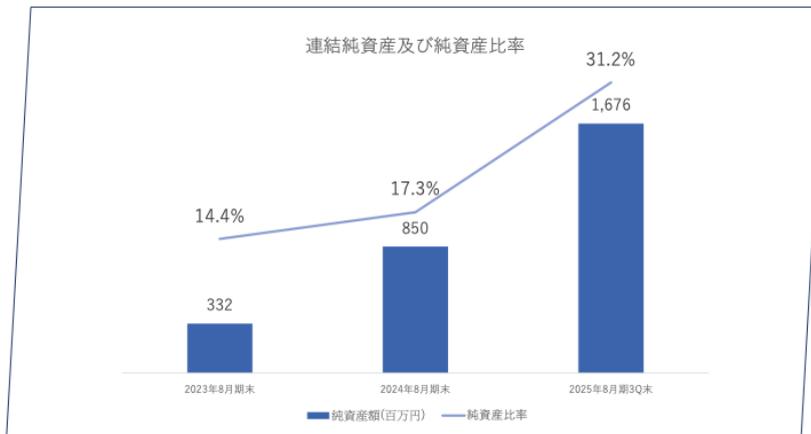
- ・税制優遇措置に伴う需要増により、3月に売上239M計上
- ・GPUサーバー for AI事業およびデータセンター事業において、電力活用型マイニングおよびAI向けGPUサーバーの販促強化に向け、専用LPを公開
- ・マイニングマシンの販売台数・顧客数・自社データセンター稼働顧客数において、4年連続で国内No.1（東京商工リサーチ調べ）を達成
- ・株式会社マックハウスとの暗号資産事業における包括的協業を締結し、暗号資産トレジャリー事業支援開始
- ・販売代理店の募集範囲を拡大し、新規代理店の獲得を推進



Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

こちらがGPUサーバー事業の説明です。第3四半期については、3月に2億円超の売り上げがあり、3Qの会計期間については、営業利益が5200万円改善しましたが、累計としては営業損失というところですが、経常利益については4100万で黒字転換というのが第3四半期の結果になっております。GPUサーバーfor AI事業、データセンター事業について専用LPの公開であったり、販売代理店の拡大など、さらなる大きな利益のための準備をしているというところですが、マイニングマシン販売台数の実績についても4年連続ナンバーワンを達成し、暗号資産事業に関して、マックハウスさんとの包括的協業も実施し、これから先につながる暗号資産トレジャリー事業の支援についても開始していくところです。

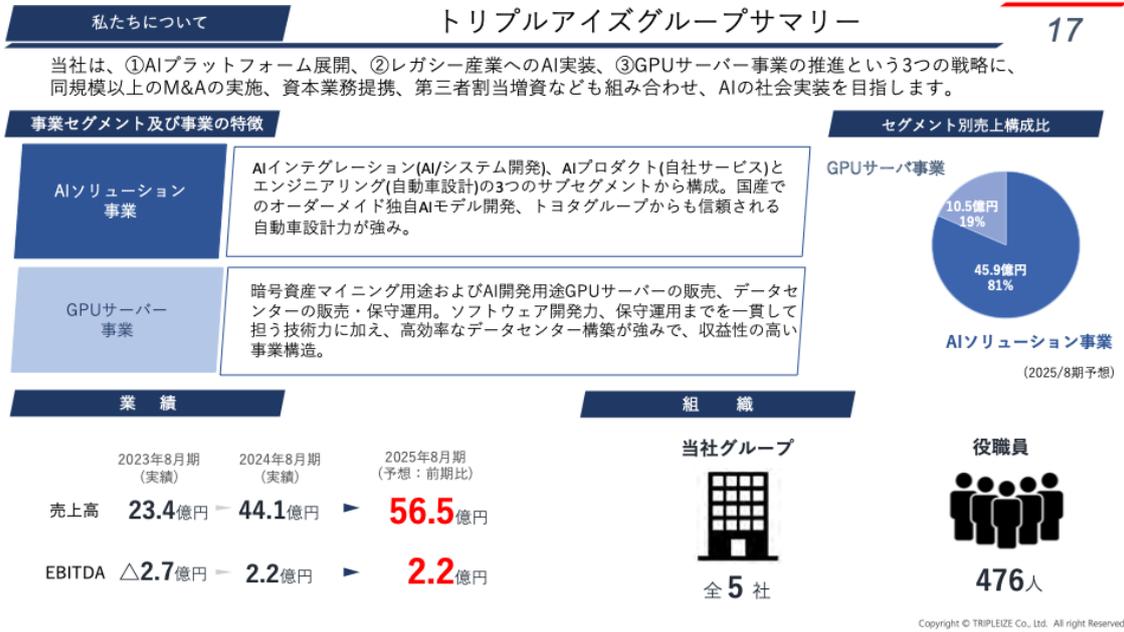
GPUサーバー事業において棚卸資産評価損278百万円を計上したものの、グループインした株式会社BEXのファウンダー及び資本業務提携を実施した株式会社ゲームカード・ジョイコホールディングスに対して、第三者割当増資を実施したこと等により、前期末と比較して純資産は826百万円増加し、純資産比率は31.2%に上昇したことで、財務体質が大きく改善しています。



Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

純資産比率につきましては、第3四半期時点では31%に上昇し、財務体質が大きく改善しています。今回在庫評価損を特別損失計上しておりますけれども年間を通じてこのグラフにありますように純資産が改善しているというのは、実は大きなポイントだと考えておりました、業績のブレがある時でも成長を継続できるように、財務状況については万全の体制としたいと考えております。

□会社概要



当社グループについて 1 枚で示したものがこちらになります。特に左下の売上高に象徴されるように、この 2 年でグループの形が大きく変化し拡大しています。そういったなかで、「AI プラットフォーム事業」「レガシー産業への AI 実装」「GPU サーバー事業の推進」という 3 つの戦略に M&A 等の資本政策を掛け合わせて成長していきたいと思っております。



主要取引先企業の一覧です。この 1 年、特に大手企業さんとの取引が増え、グループとし

て新たなフェーズに入ってきたと実感しています。

□市場環境

市場の動向

トランプ関税は追い風になりうる

28

国産AI技術

トリプルアイズは自社開発AI「AIZE」やエッジAIを保有。対中リスク回避の中で「**日本発の信頼できるAIベンダー**」としての需要が増大。

エッジAIの需要拡大

通信コストや遅延・セキュリティを抑えるエッジAIは、**クラウド依存からの脱却手段**として注目。国産エッジAIを提供できる数少ない企業として優位。

国産GPU

AI開発において「**国産データセンター**」や「**非中国製GPU**」へのニーズが上昇。自社GPUサーバー整備は**対米中依存リスクの低減策としてアピール可能**。

サプライチェーン再構築

製造業や設計分野でのAI導入支援（例：BEXなど）は、**脱中国化する製造業のDXニーズと合致**。

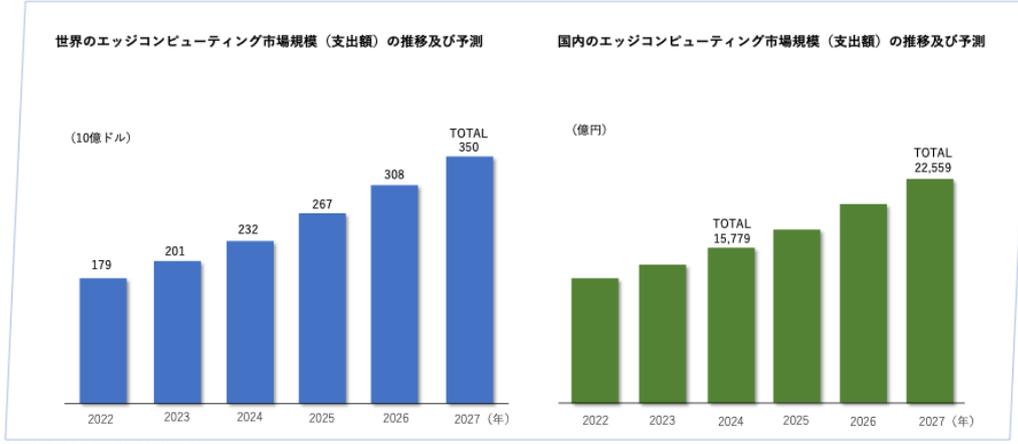


出展： <https://www.nikkei.com/article/DGXZQQUA033560T00C25A700000/>

Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

トランプ関税が 25%ということではほぼ確定だと思えますけれども、経済構造の変化がこれから確実に起こっていくという状況だと思っています。こういった中で我々トリプルアイズとしては、いくつかポイントがあると思っています。一つは国産の AI 技術を持つベンダーとしての優位性です。お客様との案件打ち合わせの中でもこれはヒシヒシと感ずるところです。2つ目はエッジ AI の話にも絡んでくるのですが、クラウド依存からの脱却の必要性ということです。セキュリティの観点でも通信コストダウンの観点からも脱クラウドは注目を集めつつあると思います。製造業の分野での DX も今後加速していくと考えています。

生成AIの成長はエッジAIに移行し、ユーザーに高速でパーソナライズされた体験を提供し、投資家にとって魅力的な機会をもたらします。エッジAIは、スマートフォンや自動運転車などのデバイスにAI機能を直接搭載し、リアルタイム翻訳やパーソナライズされたサービスを提供します。今後、エッジAIデバイスの普及が進むと、PCやスマートフォン市場が活性化し、新たな「キラーアプリ」の出現が期待されます。



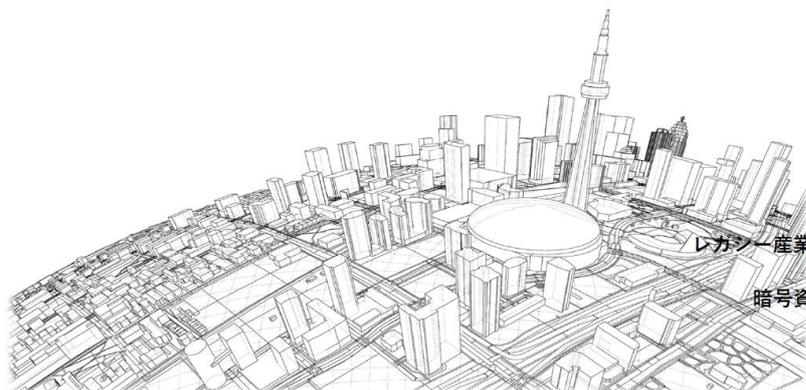
Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

エッジ AI という領域がマーケットとしてもどんどん大きくなっていくと思っています。当社は AI とソフトウェアの技術力を持つ会社として、ハード側に組み込んでいくところについては他社と組みながら共同開発で進めております。

□成長戦略

Message

トリプルアイズグループは、画像認識をはじめとするAI技術、GPU、ブロックチェーン、そして自動車設計という最先端技術の各領域の現場の最前線にいます。エンジニアは新たな市場と未来を切り拓いていきます。



生成AIの爆発的進化

顔認証サービスの実装

レガシー産業への国産エッジAIの提供

暗号資産トレジャリー事業支援

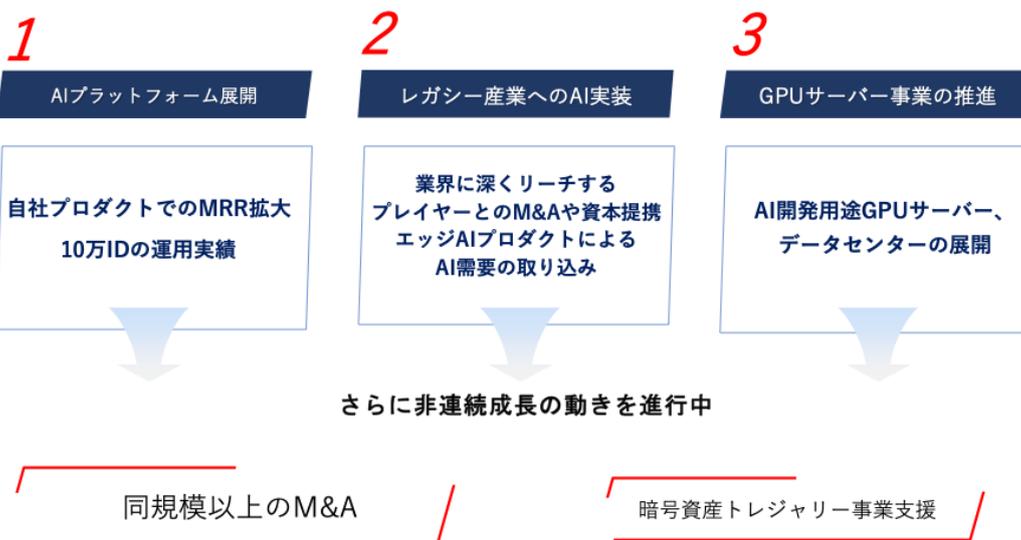
AI×M&Aの非連続成長

トリプルアイズグループは、画像認識を始めとした AI、GPU、ブロックチェーンそしてさらに自動車設計という、最先端技術が求められる現場の最前線で新たなものを生み出そうとしているところです。それについては私自身もブレずに邁進していきたいと思います。

成長戦略

3つの戦略でAI社会実装を実現

39



Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

成長戦略の大枠について改めてご説明したいと思います。

一つ目が AI プラットフォームの展開、そして二つ目がレガシー産業への AI の実装、そして

3つ目が GPU サーバー事業の推進です。そこにさらに非連続の成長の動きを重ね合わせていくというところで、同規模以上の M&A、そして暗号資産のトレジャリー事業の支援といった構成で戦略を進めていきたいと思っています。

AIプラットフォーム展開

- ・世界大会有数の実績を誇る囲碁AIの研究開発から生まれた**10万IDの運用実績、自社AIプロダクトとしてはトップクラスの運用実績**（例：大規模自治体初の世田谷区非常勤勤怠管理システム採用から全国展開）
- ・当社AIプラットフォームと開発力を活かし、他社SaaSサービスと連携し、他社勤怠管理システムへバンドル提供、レベニューシェアで拡大（例：LINE WORKS、TeamSpirit、ASPIT等）
- ・**AI自社プロダクトは月額利用料(MRR)が高粗利で長期継続、拡大を目指す**
- ・AI自社プロダクトを全国の多様な業種に展開し、「AIラボ」の提供機会を創出する戦略とし、「AIラボ」を顧客と共同で取り組むことで、SI大型請負案件につなげる

Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

まず AI プラットフォームの展開ですが、囲碁 AI の研究開発から生まれた AI プラットフォームは、10 万 ID の運用実績があります。そしてプラットフォームと技術開発力を活かして、他社とサービスと連携をしまいいります。また、自社プロダクトの月額利用料は高粗利であり、このビジネスをしっかりと長期継続と拡大を目指してまいいります。当社の AI 自社プロダクトを全国の多様な業種に展開しつつ、「AI ラボ」のサービスでリード創出のきっかけをつくりながら、大型案件をつくっていくという戦略を構築しています。

レガシー産業へのAI実装

- ・ AIの導入余地が大きいレガシー産業にアプローチ
- ・ 自動車業界(設計、製造)については、**トヨタグループ各社との顧客網を築く株式会社BEXの知見を活かし、業種特化のAIプロダクト開発を目指す**
- ・ 遊技業界プリペイドカードシステム最大手のゲームカードジョイコホールディングス社との資本業務提携も実施し、**遊技業界のAIによるデジタル化を目指す**
- ・ 上記以外でも、**レガシー産業にリーチするリーディングプレイヤーとのM&Aと資本業務提携を皮切りに、当該産業へのAI実装を目指す**
- ・ イノテック社と共同開発した**製造業に強いエッジAIプロダクトによるAI需要の取り込み**

Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

レガシー産業への AI 実装ですが、こちらについては現在、いくつかの案件が進行中ですが、導入余地が大きいと実感しています。具体的にはトヨタグループ各社さん、ゲームカードジョイコホールディングスさん、イノテックさんとの共同開発があります。これ以外にも、資本業務提携と M&A を組み合わせて AI 実装をしていくという戦略です。

GPUサーバー事業の推進

- ・ 独自開発したソフトウェアを搭載した暗号資産マイニング用途及び**AI開発用途GPUサーバーマシン、モジュール型/コンテナ型のデータセンターの販売**
- ・ 大量電力消費時代における電力発電事業者や土地保有者との余剰電力等の活用推進
- ・ 電力料金の低くクリーンエネルギー活用可能な海外データセンターの拡張

Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

GPU サーバー事業の推進ですが、こちらには独自開発したソフトウェアがポイントになります。暗号資産マイニング用途や AI 開発用途の GPU サーバーマシンの販売をこれからもさらに推進してまいります。加えて、生成 AI の普及には電力の問題が非常に密接に絡んできますので、デ

ータセンターの拡張についてもさらに進めてまいります。

M&Aによる非連続成長の実現

同規模以上のM&Aを実施し、非連続成長を実現

Moreover

AIの周辺領域のM&Aによるソリューションの強化

独自開発のAI基盤が多業種に展開可能で、シナジーを創出

M&A時には創業者も増資で参画し、グループ一体で価値向上を推進

同規模以上のM&Aを実施し、非連続な成長を実現していくのも当社の重要な戦略の一つです。

暗号資産トレジャリー事業支援

持続的かつ安定的な暗号資産事業を実現する

furthermore

暗号資産エコシステム全体の質的向上に貢献

国内外のマイニング基盤や技術的知見で信頼性の高い事業推進

電力コスト、環境対応、遠隔運用といった課題へのノウハウ提供

持続的かつ安定的な暗号資産の事業は現在、非常にニーズがあると考えております。いろいろな会社さんが暗号資産事業に取り組んでいますが、エコシステム全体の質的向上に貢献していきたいと考えています。

トリプルアイズのAIの技術力と知見を活かして構築した独自のAIプラットフォーム基盤をベースに、自社プロダクトの拡大、他社サービス連携、AI案件のフックから大型システム案件受注につなげる戦略を推進していきます。



AIエンジンの世界的実績を持つ自社プロダクト

世界大会有数の実績を誇る囲碁AIの研究開発から生まれ自社プロダクトの提供によって10万IDの運用実績をもつAIエンジン

他社サービス連携

API、SDKでの他社SaaSサービスとの連携し、レベニューシェアで拡大、AI自社プロダクトは月額利用料が高粗利で長期継続

AIフックから大型化

AIラボサービス（事例頁参照）及びオーダーメイドAI開発リード顧客からの大型システム開発受注、基幹システム開発受注

Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

こちらがAIプラットフォームを1枚で表したものです。左の図にあるように、AIプラットフォームサービスを一通貫で、独自にカスタマイズをしながら提供しているところが我々の特徴だと思っています。



このプラットフォームを基盤として、偏りが少ない多様な業種にサービスを提供しているのが我々の特徴だと思います。

うことで、他の自治体への展開も目論んでいきたいと思っています。

2025年6月には、AI顔認証付きクラウド型勤怠打刻サービス「きんろく for LINE WORKS」をリリースし、LINE WORKSの管理画面から即時利用可能となりました。ダイワボウ情報システムおよびSB C&Sを販売パートナーに迎え、普及拡大が期待されます。また、「LINE WORKS Partner Award 2025」を受賞し、両社の関係が一層深まっています。

SB C&S

DIS
ダイワボウ情報システム株式会社

2025年6月20日
AI顔認証付きクラウド型勤怠打刻サービス
「きんろく for LINE WORKS」スタート
LINE WORKSの管理画面から即座に利用可能に



「LINE WORKS Partner Award 2025」にて
「The Best Collaboration」を受賞



「アルろく for LINEWORKS」を提供し業務効率化や法令遵守を支援。これらの協業が高く評価されました。

Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

LINE WORKS さんとの連携では、アルコールチェックや顔認証勤怠打刻のサービスも拡充しており、LINE WORKS さんが持つ 500 万人ユーザーの市場の中で広がっていきと考えています。また、SBC&S さんやダイワボウさんといった大手販売パートナーさんとも連携し、信頼関係を構築しつつビジネスを進めているところです。

事業の概要

既に多数のユーザーが使用するITシステムとの共同開発で、「画像認識プラットフォームAIZE」のAI機能を搭載いただくことで**既存システムに付加価値を提供し、ユーザー数の増加**によってリカーリングレベニューを拡大させます。

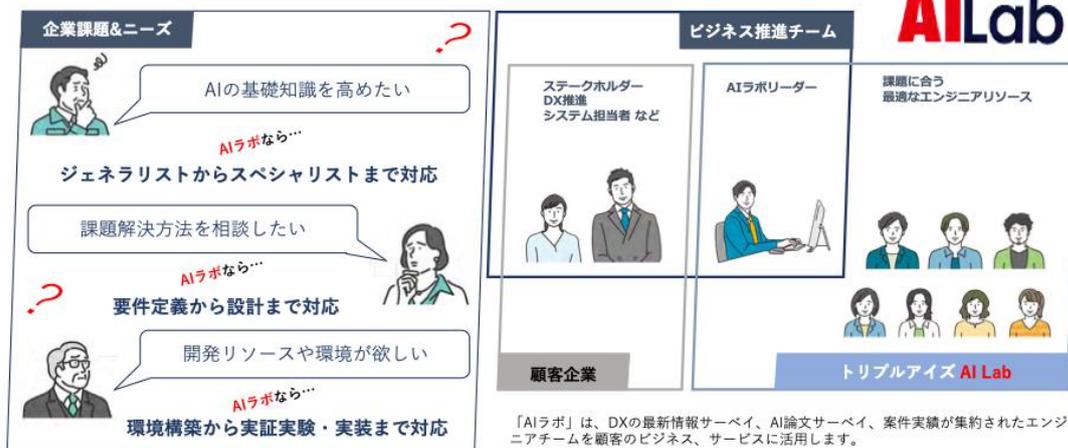
実際の事業展開例および今後の成長可能性

既存ITシステム	AI機能	共同開発サービス
LINE WORKS 導入 43万社、450万ユーザー（2024年6月）	AIZE Breath	アルろく for LINEWORKS
【市場規模とターゲット】 義務化対象ドライバー：約 869 万人 LINE WORKSユーザーとの高い親和性 ： 50 万社・ 500 万人	【顔認証AIのニーズ】 スマホで簡単に管理可能なツールを求める潜在顧客数*試算 ：869万人 × 83%（未導入率と実施率から算出） = 724 万人	【ポテンシャル】 潜在需要：約 83 万ユーザー 年間収益インパクト：約 14 億円
【アルコール検知器の導入状況】 導入準備開始企業： 58% 未着手企業： 21% 潜在顧客の課題：チェックの実施率の低さ	【差別化ポイント】 LINE WORKS内アプリでアルコール検知できるのは当社のみ	

Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

「アルろく for LINE WORKS」のビジネスインパクトについて記載したのになります。

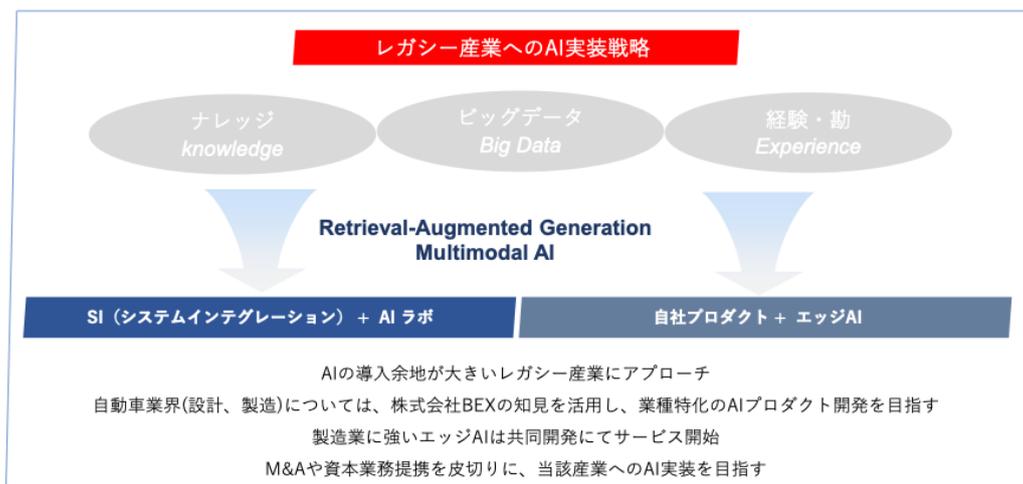
画像認識プラットフォーム「AIZE」を多業種に展開し、リード創出を強化。「AIラボ」で顧客と共創し検証を推進、AIシステムの開発、既存システムインテグレーションといった大型案件獲得へつなげ、顧客のLTVを向上させる戦略です。



Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

「AIラボ」は、現在非常に好調な状況です。画像認識プラットフォーム AIZE を全国で多業種に展開しておりますが、そこでリード創出を強化しながら、AIラボでしっかりと顧客との共創を深めていき、そこから AI システムの開発や大規模なシステムインテグレーションの受注につなげていきます。結果として顧客の全体の価値向上につなげていくという戦略です。

レガシー産業という課題解決が困難な大規模市場においてサービス提供を開始しています。AIの社会実装を進めるべく、レガシー産業のプレイヤーと組み、共同商品開発、営業連携による事業展開を進めていきます。



Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

次がレガシー産業へのAI実装になります。レガシー産業についてミッションクリティカルという表現をされる方もいますが、課題解決のハードルが高く、かつ大規模な市場だと感じています。そういった中で我々は業界に深く入り込んでいるプレイヤーとタッグを組み、共同商品開

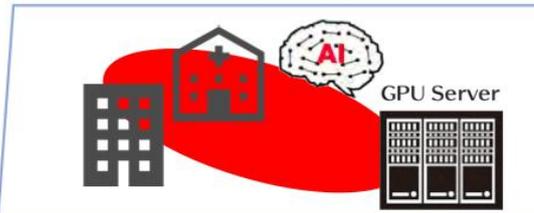
発や営業連携による事業展開を進めていくことを大きな柱として掲げています。

②レガシー産業のAI実装

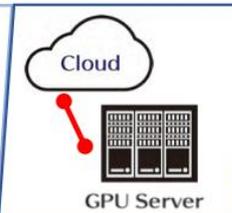
「エッジAI」ニーズの高まり

55

エッジAI【基幹系】



ハイブリッドクラウド



クラウド【情報系】



業務・業種別AI搭載GPUサーバー

生成AIを活用したオンプレミスAIシステムを提供。特定業種・業務向けに最適化し、データ管理やセキュリティを強化します。

【主な用途例】

- ・製品設計支援AI搭載GPUサーバー
- ・セキュアなデータ管理
- ・製造業や設計業務など、業種ごとのニーズに対応

エッジAI事例：AIZE搭載「Edge FACE」

国産AIとハードを組み合わせたエッジ顔認証は、高セキュリティ・即時認証・ネットワーク非依存が特長。工場やオフィスの入退管理、装置操作認証、無人受付など、機密性やリアルタイム性が求められる現場で活用されています。



Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

エッジAIの市場でお客様のニーズが高まっているのを実感しています。イノテックさんの国産ハードと当社のAIエンジンを組み合わせたのがエッジ顔認証です。こちらについては工場やオフィスの入退室管理に使われています。機密性やリアルタイム性が求められる製造現場で活用が始まっているところです。これまでの長年の技術開発への投資が花開く分野であると可能性を感じています。

②レガシー産業のAI実装

資本業務提携やM&Aを駆使したレガシー産業へのAI実装

56

BEXのグループインを契機に自動車設計業務分野におけるAI社会実装を共同で進めております。人間による作業やチェックが多い自動車設計業務において、自動化・効率化のためのAIソフトウェアを共同で開発し、これを自動車設計業界内に展開していきます。また、遊技場向けプレイドカードシステムのリーディングカンパニーであるゲームカードジョイコホールディングスとの資本業務提携を通じて、AIを用いた業界のデジタル化を目指します。

AIによる業務**支援**

業務フローの標準化
ルーチンタスクの自動化
プロジェクト管理のサポート
データの解析/市場分析

AIによる業務**代替**

ナレッジデータ学習による専門タスクのAI化
要件定義の自動生成
マーケティングレポートの自動生成

AIによる業務**拡張**

新製品・新サービスの企画立案
新製品・新サービスの開発支援
生産工程のDX化（AIと熟練者の協働）

＜例:ゲームカードジョイコ社とのプロジェクトスケジュール＞

	[2024年9月]	[2026年3月]	[~2027年8月]
Phase 1	システムリプレイス・リファクタリング	レガシー技術/プログラムの刷新	
		開発プロセス標準化	
		システム試験業務の改善	
		インフラ・基幹システム更改	
Phase 2	AIを用いた遊技業界のDX		顧客動向や売上など、各種データ分析
			デジタル端末による新しい顧客体験の提供
			イベント・プロモーション戦略

Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

グループインした BEX 社との自動車設計分野における AI の社会実装に向けた共同開発や資本業務提携したゲームカードジョイコホールディングスとの協業におきましては、より現場の深い理解を通じて進捗しております。

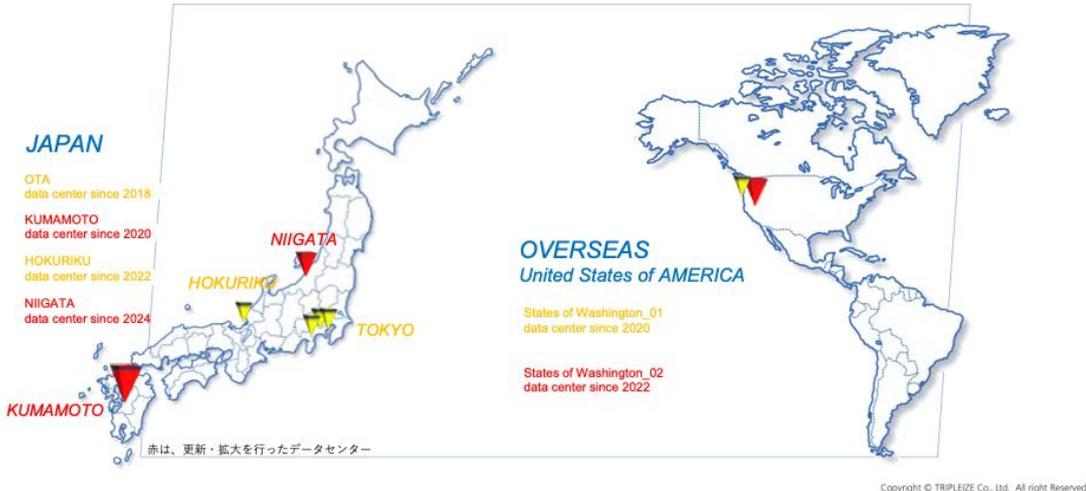
AI向けGPUサーバーの需要が高まる中、ゼロフィールドは「GPU Server for AI」としてAIを活用する事業者向けに、最適なサーバーソリューションを展開しています。自社データセンター運営の経験を生かし、カスタマイズや運用サポートを強化。生成AIや大規模言語モデル、3Dシミュレーションなどの用途に応じたインフラ環境の提案が可能です。高性能なGPUと柔軟なサーバー運用で、AI開発の加速に貢献します。

AIのインフラとなるGPUサーバー	AIシステムやAI開発のパートナーとして
 <p>事業者向け生成AI用GPUサーバー 【NVIDIA H200を最大8GPU搭載可能 Supermicro社製】</p>   <p>AI開発者向けワークステーション 【最大4GPU搭載可能 デスクトップからラックマウントまで】</p>	 <p>生成AIの利用拡大に伴いニーズが増えているエッジデータセンターとして、当社開発のコンテナ型データセンターとともにGPUサーバーの提案も行う。 AI開発からGPUサーバーの運用、データセンターの構築までトータルサポートが特徴。</p> <p>GPUサーバーの導入を広げるべく、AI活用の推進とAI開発事業者との提携を進めています。一般社団法人生成AI活用普及協会(GUGA)にシニアパートナーとして加入しました。AIサービス事業者や、AI開発事業者やAI導入支援事業者との連携を進め、AIインフラの提供を広げます。</p> 

Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

GPUサーバー事業の推進になります。ゼロフィールドはAIを活用する事業者様向けに最適なサーバーソリューションを展開しており、自社でのデータセンターの運営の経験を生かして、カスタマイズ運用サポートを強化しながら対応できるというのは大事なポイントだと思っています。生成AIだったり大規模言語モデルだったり3Dのシミュレーションだったり、こうした用途に応じたインフラ環境の構築にもエンジニアが適切に提案できるのが強みだと思っています。生成AIの拡大に伴って、AIの開発からGPUサーバーの運用、データセンターの構築までトータルでサポートできるということは、稀有な存在であると思いますし、それぞれの領域について情報が変化していくなかで、それをキャッチアップできているグループというのは少ないと感じております。この分野においては、ビジネスのポテンシャルが高いと感じています。

今後の売上拡大を視野に国内外のデータセンターにおいて追加の設備投資や設置上限台数の引き上げを行っています。2024年5月には新潟県に新データセンターを開設しました。今後の販売計画に合わせ、国内外で追加のデータセンターの開設やデータセンター事業者との業務提携、データセンター拡張による設置可能台数の拡大など、複数の対応を行っています。



データセンターの拡張については、地政学的な観点も含め国内外のエリアを検討しています。

2018年から国内外で合計6拠点のデータセンターを展開するゼロフィールドでは、2022年に開設した独自開発のモジュール型データセンターに加え、2024年にはコンテナ型データセンター『DINO Rex』を開発。DINO Rexは、顧客ニーズに合わせてカスタマイズすることができるため、国内No.1を獲得している暗号資産マイニングでの活用はもちろんのこと、生成AI用にエッジデータセンターとして活用することもできます。短期間に設置できるため、安価な電力の新たな活用方法として販売を広げています。



データセンターは非常に動きが激しい分野です。データセンターの効率的な運用を2018年から6拠点で継続しているというのが顧客の信頼獲得につながっていると思っています。プラスアルファとして、余剰電力をどう活用していくかが、昨今の大きな流れの中で日本経済が抱える根本的な課題です。電力という領域ではとんとん拍子に話が進むわけにはいかないのですが、確実に進めていきたいと考えております。

大型M&Aの実施

- ・同規模以上の大型M&Aの実施
- ・ターゲットはEBITDA倍率4倍～5倍前後

AIソリューション事業を基盤としたシナジー

- ・エンジニアが活躍する楽しいと思える領域、AI周辺事業領域のM&A
- ・独自開発AIの共有によるシナジー創出

自由度の高い資本政策

- ・グループインした役員を中心に有償SOを付与するなどインセンティブを過去実施

当社グループへの資本参画によるベクトル合わせ

- ・M&Aと同時にファウンダーに当社グループの第三者割当増資を実施、当社グループ価値向上を当社とともに目指す

Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

当グループの M&A の方針ですが、同規模以上の大型 M&A を継続して検討してまいりたいと考えております。この3年で売り上げが2.5倍と、のれん償却を除いた EBITDA そして売り上げが大きく成長しております。こういった大型の案件を連続してチャレンジしている会社は非常に少ないと認識しております。我々が目指したいこととして、エンジニアが働いていて楽しいと思える領域を広げていきたい。さらに、我々が独自で作り上げた AI プラットフォームをベースに、それぞれのビジネスの中で苦楽を共にして成長していく仲間を増やしていきたいと思っています。そのために資本参画なども含めて同じ船に乗ってもらって、ハードルを一緒に乗り越えていく方針でやっていきたいと考えています。

大型M&AとIFRS導入

- ・ゼロフィールドは25年8月期が売上高10.5億、のれん(顧客関連資産含む)償却前経常利益1.0億と通期でのれん償却1.1億を下回るが、暗号資産という新分野の開拓による貢献が大きい。
- ・BEXはのれんの総額は2.5億円(PPA認識後年間償却約19M)であり、また、人員減が想定以上に推移し、当期3Q以降は利益水準が低下するものの、通期では売上17億、のれん(顧客関連資産含む)償却前経常利益77Mで着地予定であり、グループ業績に寄与。3Q以降の利益水準が来期は継続し、今後は成長していく予定。
- ・DX推進、連結経理、グループ通算制度など業務及び税務効率化についても推進
- ・**のれん償却負担軽減及び積極的なM&A推進のため、IFRS導入準備を推進中**

エクイティ調達、財務体質の改善

BEXファウンダーからのエクイティ調達、24年10月に完了したゲームカードジョイコホールディングスへの第三者割当増資実施等により、**純資産額は16億以上に増加し、大きく財務体質を改善**

M&A、資本業務提携によるAI社会実装の加速

- ・ゲームカードジョイコホールディングスとの取引は、資本業務提携前より開始し、当期売上は**1.6億を計上予定で、順調に増加**。今後は遊技業界のAIを用いたデジタル化など当社AI技術を利用した独自のプロダクト開発に共同開発中。
- ・**BEXと着手している自動車設計の業務効率化AIの共同開発においては、複数の設計効率化ソフトを試作開発中。**
- ・ゼロフィールドとトリプルアイズがオフィスを同居し、エンジニア交流が一層進む形としAI×GPUの研究開発を推進。**ゼロフィールドは暗号資産など最先端分野の開拓**
- ・これらの活動が当社のAI社会実装を加速させる

Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

M&A と資本業務提携の進捗についてご説明します。ゼロフィールドについては、のれんの償却前経常利益については1.0億円に対してのれんの償却1.1億円と下回っている状況ですが、新分野の開拓による貢献が非常に大きいと思っています。BEXにつきましては、のれん2.5億円、通期では売上17億円、のれん償却前経常利益7700万円でグループ業績にも寄与しているという認識です。3Q以降の利率水準が人員減によって少し落ちましたが、今後成長していく予定です。また、のれん償却負担の軽減及び積極的なM&A推進のため、現在、IFRSの導入準備推進中です。資本業務提携とM&Aでの事業シナジーについては、着々と進めているところです。

国内の動向

暗号資産の「20%分離課税」導入議論：日本では暗号資産の利益は雑所得として総合課税(最大55%)の対象だが、株式やFXのように「20%分離課税」へ移行する議論が進行中。この分離課税が実現すれば、個人投資家の税負担が大幅に軽減され、暗号資産市場の活性化や健全な投資環境の整備につながると期待される

暗号通貨の大きな意義

AI×暗号資産のシナジー：生成AI時代、AI技術と暗号資産の融合でグローバルな価値交換が拡大。データセンターの余剰リソースをマイニング等に活用し、効率的な運用を実現
分散型ネットワーク構築：トークン活用で分散型AIインフラの構築や新たな経済圏が創出される

暗号資産トレジャリー事業

暗号資産トレジャリー事業は、企業が自社の余剰資金や資本を活用しビットコインなどの**暗号資産を戦略的に取得・保有、財務資産や経営資源として運用する事業**。三菱商事やローソンが運営する「Ponta」が、ポイントと連携した暗号資産取引サービスを2025年内に開始予定で企業の新たな資産運用手法として注目されている



<https://toyokeizai.net/articles/-/865843>
<https://forbesjapan.com/articles/detail/80012>

Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

暗号資産トレジャリー事業の支援については、国内の動向を見ると、暗号試算に関しての20%の分離課税導入が議論されています。雑所得で55%だったものが20%に変化していくと、広く個人投資家にも広がっていくエリアなのかなと感じています。AIの技術と暗号資産といったテクノロジーが融合・連携していくこともこれから起きていくのではないかと考えています。またAI用途のデータセンターの余剰リソースを暗号資産のマイニングで活用したりといった連携もこれから始まるのではないかと考えています。企業が円の価値、ドルの価値を考えさせられる時代の中で、余剰資金や資本を活用して、ビットコインなどの暗号資産を活用して経営資源として考えていこうというのが大きな流れだと認識しております。三菱商事とローソンが運営するPontaが、ポイントと連携した暗号資産取引サービスを今年中に開始予定であると聞いております。非常に大きな動きがこのひと月ふた月で起きているなという印象があります。

高性能PCとワンストップソリューションを提供するゼロフィールドは、技術力が評価されマイニング業界で4年連続3冠を達成。豊富なマイニング実績、独自の運用技術、電力コスト最適化、パートナー企業への包括支援体制を強みとし、暗号資産トレジャリー事業において信頼性と成長性を両立しています。

5つの支援内容

- ① **マイニング拠点の選定・構築支援**
企業のニーズや電力特性を踏まえ、最適なマイニング拠点の選定から設計・構築まで一貫してサポート
- ② **機器選定・導入・運用支援**
最新のマイニング機器の選定から導入、稼働後の運用まで、専門ノウハウによるトータル支援を提供
- ③ **電力コスト最適化とESG対応を含む持続可能性設計**
電力コスト削減とともに、環境・社会・ガバナンス（ESG）に配慮した持続可能な運用体制を構築
- ④ **暗号資産市場の動向や技術トレンドの情報提供**
市場や技術の最新動向をタイムリーに提供し、企業的意思決定をサポート
- ⑤ **NFTやブロックチェーン活用に向けた技術支援**
今後のNFTやブロックチェーン事業展開を見据えた技術的なアドバイスや導入支援も実施



今後当社グループでは、暗号資産トレジャリー事業に対する支援をゼロフィールドの技術力をもって提供していく考えです。各社でどのように暗号資産トレジャリー事業に取り組んだらよいのかという試行錯誤はこれからも続いていくと思います。当社グループでも、ゼロフィールドとマックハウスさんの暗号資産トレジャリー事業での提携リリースを出してから、各所から問い合わせがある状況です。我々の実績と技術力があるからこそ提供できるサービスがあると考えております。

ゼロフィールド社は、暗号資産マイニング分野で独自の強みを持つ企業です。高い収益性と手間のかからない運用を両立し、初心者から経験者まで幅広い投資家に選ばれています。2年間の運用管理費無料や自動スイッチングシステム、専任スタッフによるサポートなど、安心してマイニング投資を始められる環境を提供しています。

暗号資産マイニング事業の実績

- 国内外6拠点のマイニングファーム構築実績を持ち、幅広い運用ノウハウを蓄積
- 東京本社から国内外データセンターを一括管理し、高い稼働率と安定した運用を実現
- 累計導入台数・運用台数は業界トップクラスで、多数の顧客に選ばれている
- 2年間の運用管理費（電気代含む）無料サービスなど、コスト競争力のあるプランを提供
- 独自の自動スイッチングシステムにより、常に最適な通貨で高収益を目指す運用が可能
- スマホアプリによるリアルタイム管理で、初心者から経験者まで手軽に運用状況を把握できる
- 専任スタッフによるサポート体制が整っており、導入から運用まで一貫して安心
- 短期償却など投資メリットも豊富で、法人・個人問わず導入実績多数



ゼロフィールドには、暗号資産を採掘するマイニングという分野では日本ナンバーワンの実績を積み重ねてきました。これまで運営してきたノウハウを丁寧に提供していくのが重要だと考えています。これまでに顧客と信頼関係を築いてきたノウハウを、これからのトレジャリー事業の支援においても活用していきたいと考えています。

本日の説明は以上となります。